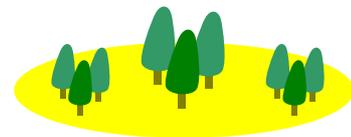




「総合的な放課後対策推進のための調査研究」 (海・山の放課後子ども教室での地域産業資源活用モデルプログラムの開発)



報告書ダイジェスト



2009.3 株式会社 開発計画研究所

I. 本調査研究の目的

「海・山の放課後子ども教室での地域産業資源活用モデルプログラムの開発」についての本調査研究は、以下のような目的で実施しました。

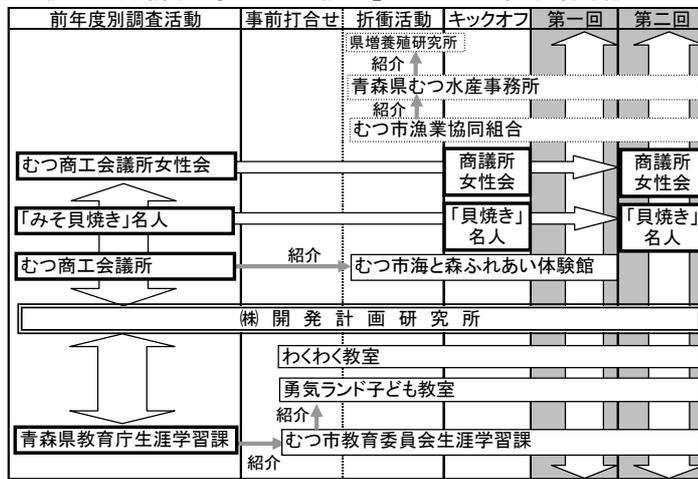
- ◆「地域産業資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の全国普及に資するための、実施例をもとにした「進め方」指針を示します。
 - ◆「海に関わる地域資源活用」モデルケースとしてむつ市でプログラムを試行します。
 - ◆「森と木に関わる地域資源活用」モデルケースとして徳島市でプログラムを試行します。
- *事業を進める中で大都市圏での試行も必要と考え、世田谷区でプログラムを追加試行しました。

II. 本調査研究の実施体制

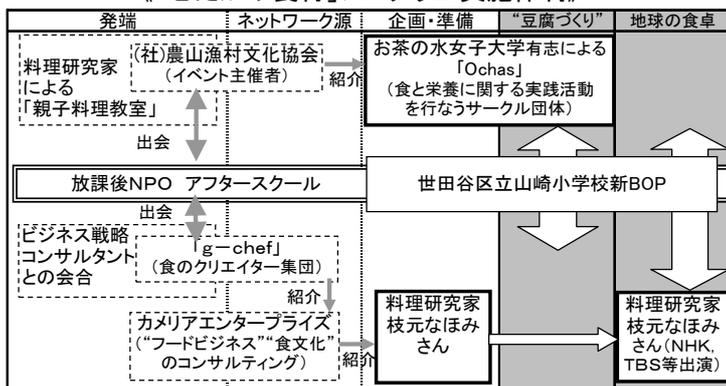
青森、徳島、東京という3地域において地域の多様な主体の協力を得て地域資源活用放課後モデルプログラムを実施しました。

- ◆青森県むつ市においては、地元漁協、県水産事務所、県水産関連研究機関、商工会議所、市海と森のふれあい体験館などの協力を得て、二回の「海とホタテ教室」を実施しました。
- ◆徳島市においては、山村・都市交流住民組織、木工他徳島特産資源のデザイン会社などの協力を得て、二回の「森と木の教室」を実施しました。
- ◆東京都世田谷区では、大学サークル、料理研究家の協力を得て、二回の食育教室を実施しました。

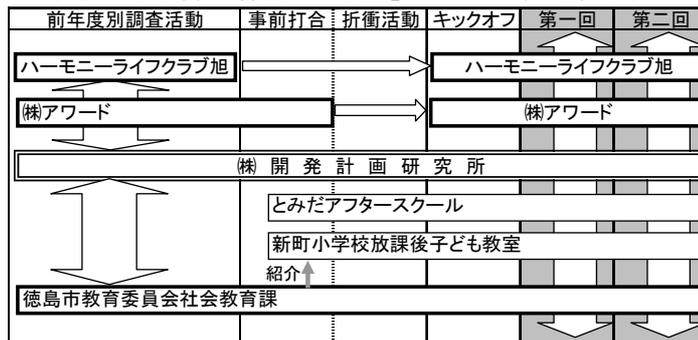
《「むつ放課後海とホタテ教室」プログラム実施体制》



《「せたがや食育」プログラム実施体制》



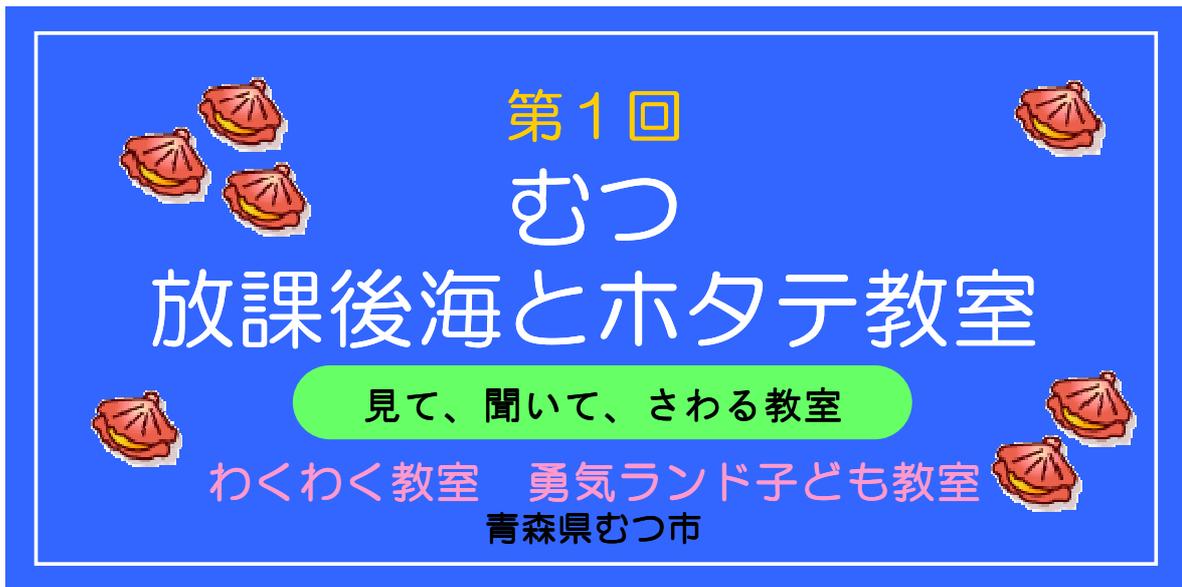
《「とくしま放課後森と山の教室」プログラム実施体制》



Ⅲ. 3地域での「地域資源活用モデルプログラム」の実施状況

1. 古くて新しい陸奥湾の食文化を創る「むつ放課後海とホタテ教室」プログラム実施レポート

①第一回「むつ放課後海とホタテ教室」



事業のねらい

むつ市の主要水産資源であるホタテを取り上げることによって、漁業や環境とホタテなどの海の生き物やそれらを食材として使った料理などについて興味をもって楽しく学べる教室の実施をする。

実施日

平成20年10月27日(月) 13時00分～17時10分

参加者

わくわく教室、勇気ランド子ども教室
児童33名（小一15名、小二3名、小三8名、小四5名、小五1名、小六1名）
教室スタッフ6名、保護者3名

スケジュール

活動内容

13:25
むつ市
漁協見学

「ホタテ貝漁業の話」

むつ湾には古くからホタテ貝が息絶していましたが、しかし、ホタテ貝の自然発生は激しい変動の繰り返していたため、安定してホタテ貝をとることは難しく、ホタテ漁の漁師さんは困っていました。

そこで、漁師さんたちが話し合いをし、自分たちでホタテ貝を赤ちゃんの貝から育て、大きくなるまで見守って、大人になったらそれをとる「養殖」という方法の漁を考えました。

「養殖」は天候などの影響も少なく、数量も計画的に管理できる利点がありますが、これを成功させるまでには、多くの漁師さんたちが一生懸命に研究をし、多くの苦勞と努力があったことを忘れてはなりません。



漁協荷捌所



むつ漁業協同組合統括 木村 悟氏

バスで
海と森
ふれあい
体験館へ

14:05
スタート

14:20
五十嵐館長
のお話

プロフィール

五十嵐健志 (いがらしたけし)
2004 年からむつ市に移住し、
NPO 法人シェルフォレスト川内
を設立し、活動を展開。現在、
むつ市海と森ふれあい体験館
の館長を勤める。

14:40
下敷き
づくり

15:05
DVD上映

15:25
今井課長
のお話

15:30
しおり
づくり

16:05
まとめ

16:20
終了

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

②「青森の海と生きもの」を学ぶ

i 館内見学

ii 「青森の海と生きもの」お話

むつ市海と森ふれあい体験館の五十嵐館長
さんから「かわうち・まり
んびーち」に生息してい
るウミウシ、アメフラシ、
イシガニなどの生き物
を見ながら、それぞれ
の生態について説明を
してもらいました。

iii 「むつ湾の生きもの図鑑」の下敷きをつくる

「むつ湾の生きもの図鑑」のリーフレットで下敷
きをつくりました。



ヤマトオサガニ



③「ホタテ養殖」と「漁業のしごと」を学ぶ

i 「むつ湾のホタテ養殖」DVD 上映

DVD を見ながら、むつ漁協の木村さんから詳しく説明をもらい、ホタテ貝の養殖
について勉強をしました。

ii 県むつ水産事務所よりお話し

青森県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所の普及課長から、青森県
の水産業のことや漁協のしごとについてお話をしてもらいました。

④ホタテの赤ちゃん貝で記念 のしおりを作ろう

ホタテの赤ちゃん貝(稚貝)で、
今日の記念のしおりづくりに挑
戦しました。

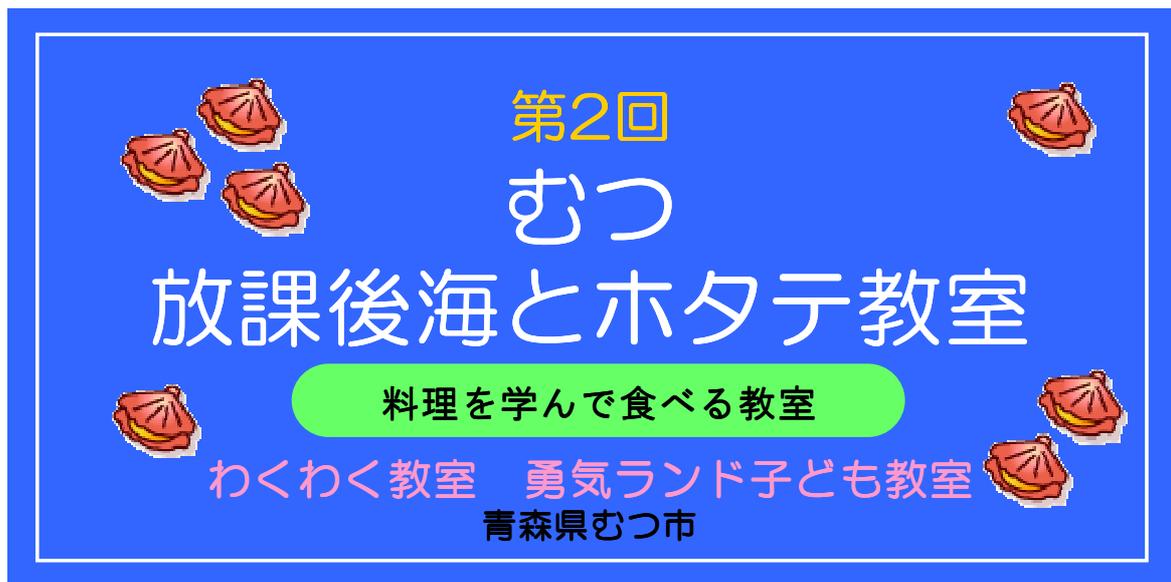


⑤まとめ(感想)、第2回の案内、お礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケート
を書いてもらいました。第2回「むつ放課後海とホタテ
教室」は、11月22日(土)10:00~13:00で開催し、
下北地域の郷土料理「みそ貝焼き」をみんなでつくって、
食べることをお知らせし、参加を呼びかけました。
そして、最後に本日のお礼にお話をいただいた方たちに、
「森のくまさん」をみんなで歌いました。



上はアンケートを記入中。下は「森のくまさん」合唱中。



第2回
むつ
放課後海とホタテ教室

料理を学んで食べる教室

わくわく教室 勇気ランド子ども教室
青森県むつ市

事業のねらい

むつ市の主要水産資源であるホタテを取り上げることによって、漁業や環境とホタテなどの海の生き物やそれらを食材として使った料理などについて興味をもって楽しく学べる教室を実施する。

実施日

平成20年11月22日(土) 10時00分～13時00分

開催場所

下北文化会館
むつ市金谷1丁目10番1号

参加者

わくわく教室、勇気ランド子ども教室
児童38名、教室スタッフ8名、保護者15名

スケジュール

活動内容

10:00
スタート

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

10:10
みそ貝焼き
のお話

②古くて新しい「みそ貝焼き」のお話し

i 「みそ貝焼き」ってどんな料理だろう？他にどんなホタテ料理があるのかな？

下北地域の郷土料理「みそ貝焼き」について、その由来や歴史など資料を基に青森県むつ水産事務所の今井普及課長にお話をいただき、また、「みそ貝焼き」の作り方のビデオを見ました。

10:25
向井名人
のお話

ii 色々な工夫でむつ市の新しい名物「みそ貝焼き」が生まれているよ～

「みそ貝焼き」のコンテストで二連覇の向井仁名人に、コンテストでつくった「みそ貝焼き」やコンテストでの苦労話や新しい「みそ貝焼き」誕生の秘話、その他のホタテ料理についてお話をいただきました。

10:35
ピックみそ貝焼き
おすすめみそ貝焼き
のお話

11:05
ピック
みそ貝焼き
づくりの見学

11:15
マイみそ貝焼き
のトッピング

11:45
会食

12:30
まとめ

13:00
終了

③「みそ貝焼き」づくりを手伝おう!!!

i 本日のおすすめ「みそ貝焼き」の紹介

向井名人から「ピックみそ貝焼き」と商工会議所女性会の村館さんからむつ地区のおすすめ「みそ貝焼き」についてお話をいただきました。



ii 「みそ貝焼き」名人の「ピックみそ貝焼き」づくりを見よう

実際に向井名人が「ピックみそ貝焼き」をつくることを皆で見学しました。



iii 「マイみそ貝焼き」をトッピングしよう

むつ商工会議所女性部の方におすすめみそ貝焼きのだし汁や材料の下ごしらえをしてもらい、盛り付けは子どもたちが一人ひとり自由に具材を選び、「マイみそ貝焼き」をつくりました。



④名人の「ピックみそ貝焼き」と「マイみそ貝焼き」を食べながら、話をして親睦を深めよう

皆で2つの「みそ貝焼き」を食べながら、楽しく歓談をしました。



⑤まとめ(感想)とお礼

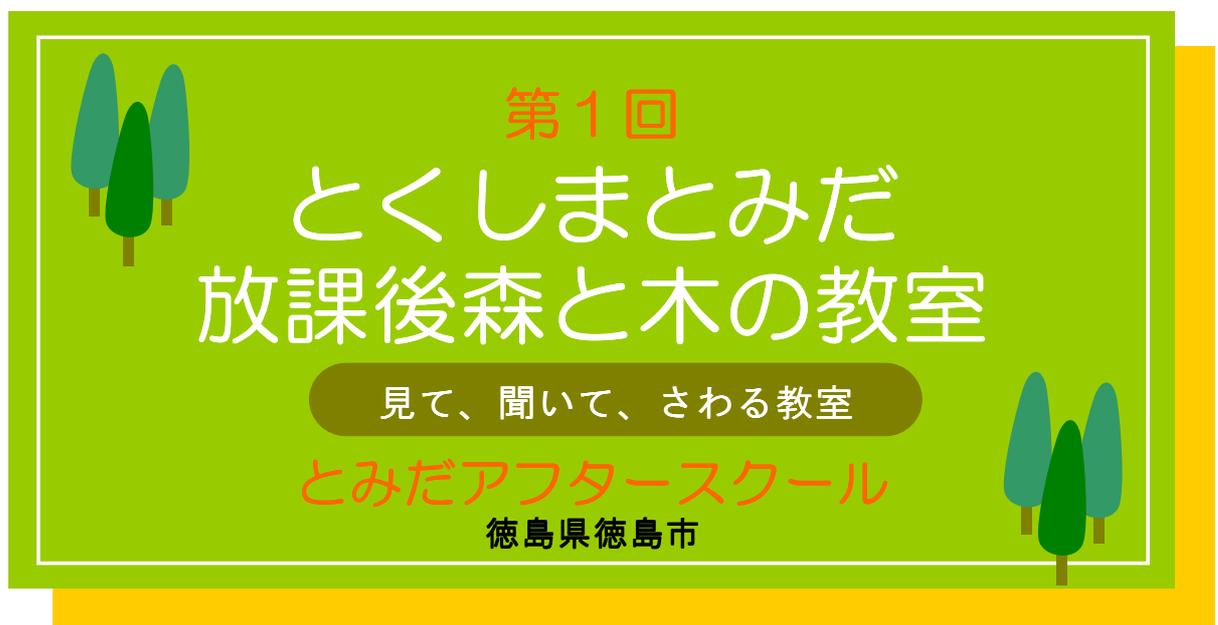
最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。本日の第2回「むつ放課後海とホタテ教室」で「みそ貝焼き」の説明をしていただいた方や「みそ貝焼き」をつくっていただいた向井名人、むつ商工会議所女性部の皆さんにお礼の言葉をおくりました。



2. 森と木の特性や魅力を知る「とくしま放課後森と木の教室」プログラム実施レポート

①第一回「とくしま とみだ 放課後森と木の教室」

* 翌日、新町小学校放課後子ども教室においても同様のプログラムの教室を実施しました。



事業のねらい

放課後子ども教室の子どもたちに、徳島県の豊かな森林資源がどのように活用され、人の暮らしを支えたのか。そして、人間にとって森や木がどれほど大切なものかということ専門家の話や木の実物に触れながら体験しながら学びます。

実施日

平成20年11月13日(木) 14時30分～16時30分

参加者

とみだアフタースクール

児童26名(小一12名、小二13名、小三1名)

スケジュール

活動内容

14:30
スタート

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

14:50
ビデオ上映
I

②「共に生きる人と森(上勝町)」ビデオ上映

高丸山と森や木の大切さやすばらしさ、そしてその森を守るためにがんばる人々のビデオを見ました。



15:00
ビデオ上映
II

③「木を育てるために【高丸山合同草刈り】」ビデオ上映

ボランティアによる幼木を守るための草刈り作業、草刈りなど木を育てるための作業の大切さのビデオを見ました。

15:10
田上先生
のお話

④山の楽校 田上校長先生のお話 「人と森のかかわり」

田上先生のお話をみんなで聞きました。



プロフィール
 田上幸輝(たうえゆきてる)
 平成 17 年に上勝町の廃校を
 利活用した体験交流施設「山
 の楽校」校長



15:30
 木のおもちゃ
 にふれる

15:45
 黒河社長
 のお話



プロフィール
 黒河昭一(くろかわしょういち)
 株式会社アワード代表取締役
 社長:徳島特産素材と技術を
 活用した商品開発、デザインを
 手掛けている。

16:15
 まとめ

16:30
 終了

「人と森のかかわり」



山の楽校 校長 田上幸輝氏

人は森なしでは生きられません。森には、木や動物、鳥、虫、植物などたくさん生きものがいて、さまざまな役割をしています。木は、山に降る雨を空に伸びている枝や葉っぱで受け止め、それが幹をつたって地面にしみこみます。その地面にしみこんだ雨が川になり、人がその水を飲んだり、生活に使ったりしているのです。また、森には木に悪い虫もいます。



しかし、木は地面に根をはっているために虫から逃げられません。そこで木は「**フィットンチット**」という殺虫剤のような香りの成分を出します。森をながめたとき、青いモヤが見えることがありますが、それが、「**フィットンチット**」です。虫よけですが、人にとってはこの香りの成分は、とても体にいいもので、リラックスできます。

地中にはミミズがいますが、木や土にとって大切な生き物です。ミミズは1年中土の中において、動物の死骸などのゴミや落ち葉をせっせと食べてお掃除をします。そして、ミミズは小さな体で1年間に3トンものフンを出します。このミミズのフンによって養分がたくさん含まれる土になります。この栄養豊富な土で木や植物が大きく育ちます。このように、森は水や空気をつくり出す工場のようなはたらきをしているのです。

わたしたちは、森のめぐみに感謝の気持ちを持ち、そしてこれからも大切に守っていかなくてはいけないのです。

⑤木のおもちゃや道具にふれてみよう

田上先生手づくりのつみ木、からくりおもちゃ、竹細工などで遊びました。



⑥デザイナー黒河社長のお話「くらしの木をいかす」

黒河先生の木のアワードのお話やデザインした作品にふれてみました。

「くらしの木をいかす」



株式会社アワード社長 黒河昭一氏

人は動物と違い、「考えること」、「つくる」ことができます。

デザインという仕事は、この2つがいっしょになったとても楽しい仕事です。

わたしは木を使っていろいろなもの考えつくるデザイナーです。

徳島の杉などを使って椅子などの様々な家具をつくっています。また、昔、徳島ではお花見やひな祭りに使っていた遊山箱という手提げのお弁当箱も桐の木で現代風にアレンジしてつくっています。いろいろな木がありますが、どの木もよいところと、

むずかしいところがあって、それをどんな風に使って、何をつくろうかと考えるのが楽しいです。また、木には金属などの素材にはないやさしいぬくもりがあります。ですから、わたしはこれからも木をつかっていきたいと思っています。そのためにも、森や木を大切に守ってほしいと思います。いろいろなものを考え、つくるデザインの仕事は、本当にやりがいのある仕事です。わたしはデザイナーになってよかったと思っ

ています。みなさんも、将来なりたい職業があると思いますが、そのためには、一生懸命、勉強をして色々な体験をしてください。そうすれば、必ず、その職業に

なれると思います。

なれると思います。

⑦まとめ(感想)、第2回の案内、お礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。第2回「とくしま放課後放課後森と木の教室」は、12月4日(木)14:30~16:30で開催し、木の貯金箱やおもちゃをつくることをお知らせして、参加を呼びかけました。

②第二回「とくしま 新町小 放課後森と木の教室」

* 前日、とみだアフタースクールにおいても同様のプログラムの教室を実施しました。

第2回
とくしま新町小
放課後森と木の教室
作る教室
新町小学校放課後子ども教室
徳島県徳島市

事業のねらい

放課後子ども教室の子どもたちに、徳島県の豊かな森林資源がどのように活用され、人の暮らしを支えたのか。そして、人間にとって森や木がどれほど大切なものかということ専門家の話や木の実物に触れながら体験して学びます。

実施日

平成20年12月5日(金) 14時30分～16時30分

参加者

新町小学校放課後子ども教室
児童11名(小一1名、小二6名、小三3名、小六1名)

スケジュール

活動内容

14:30
スタート

①「本日の予定」、「見どころ、聞きどころ」などの説明

14:35
おもちゃをつくる

②竹細工のこんちゅうをつくる

上勝町の清井さんが用意していただいた、竹のキットを木工用ボンドで組み立てます。作り方や順番は田上先生が説明し、スタッフに手助けしてもらいながら、かわいい“沢ガニ”を完成させました。



③杉の貯金箱をつくる

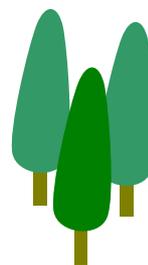
続いて杉板を組み合わせた貯金箱をつくりました。まず、田上先生から作り方の説明をしてもらいます。用意された杉板も上勝町の田野さんが一枚一枚切り出してヤスリをかけて仕上げてくれたものです。面を合わせる順番を間違えないように、くぎを打って組み立てます。金づちを使ったことがない子も多く、かなり悪戦苦闘していました。形ができたら、角をヤスリで丸く仕上げ、後は、思い思いに絵を描いたり、落ち葉を貼り付けたりしてオリジナルの貯金箱を完成させました。



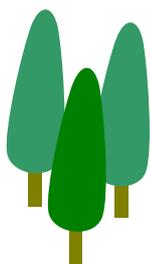
16:15
まとめ

④まとめ(感想)、お礼

最後に子どもたちには、今日の感想を含めてアンケートを書いてもらいました。また、今回はスタッフや保護者の大人の方にも今回と前回の2回分の感想とアンケートをお願い、「とくしま放課後放課後森と木の教室」を終了しました。



16:30
終了



3. 大都市の地域人材資源を活かす「せたがや食育」プログラム実施レポート

① 「大学生と一緒に“豆腐づくり”」これぞ食育の醍醐味、大豆から豆腐への劇的な変化

H20年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業

3/4

放課後食育プログラム 『豆腐づくり』

お茶の水女子大学「Ochas」と一緒に豆腐づくり

開催日・場所

2009年3月4日（水）
PM3:00～5:00
世田谷区立山崎小学校

区民先生

お茶の水女子大学「Ochas」の皆さん（17名）

当日のテーマ

大豆から豆腐に劇的に変わっていく過程を、実際の作業を通して体で学んでいく。また、食を専門とする大学生とのコミュニケーションの中で食への興味や楽しみを学ぶ。

参加者

58名



まずは「大豆はかせ」から、大豆にまつわる話です。



さっそく開始。水を測り、大豆をミキサーに。



それを鍋にかけて温めます。温めないとだめなんです。



大学生に質問する子ども。



温めたものをこします。すると・・・



豆乳。「甘い!」の声が。



こちらおから。お土産に持って帰ります。



豆乳に魔法の水、にがりを加えると・・・「豆腐」の出来上がり!!



最後はしつかり片付け。

②テレビ等で活躍する料理研究家による「遊び感覚の食育“地球の食卓”」

H20年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業

3/11

放課後食育プログラム
『地球の食卓』

料理研究家、枝元なほみさんとの本を通じた対話

開催日・場所

2009年3月11日（水）
PM2:00～4:00
世田谷区立山崎小学校

区民先生

料理研究家 枝元なほみさん

当日のテーマ

世界各国のごく平均的な家庭の一週間分の食材を写真におさめた本などを使いながら、子どもたちとの対話を進め、日本と世界を比べることで日本の食をさまざまな視点から捉える。

参加者

10名



本日は料理評論化、枝元さんを囲んでの食育です。



まずは好きな食べ物、今一番食べたものを紙に書きます。



今日用いる本は、「地球の食卓」



お料理手順のジェスチャーゲーム！

枝元なおみさん

NHK、はなまるマーケット（TBS）などでおなじみのゆるキャラ料理人。全国での料理イベント、トークショー、子供のための料理教室などの出演は多数。



子どもマネしています。



先生へのプレゼント。好きな食べものです。



キレイな食べものがたくさんの子も・・・



最後はサイン会！いいなあ～

IV. 「地域産業資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の全国普及のために

1. 3地域でのモデル事業実施を受けて

(1) むつ市での地域産業資源活用プログラムを実施して

- ①子ども扱いに慣れた施設・人材の協力により、スムーズなプログラムづくり、当日進行ができました。
- ②県の立場で産業界PRに努める担当者に参画いただいたことも好結果につながりました。
- ③放課後教室スタッフも地域の様々な資源活用に積極的であり実り多い教室となりました。
- ④身近だが、やや縁遠くなっている食を取り上げたことで楽しく拡がりあるプログラムとなりました。
- ⑤地域資源活用プログラムの継続や拡大には経費負担が検討課題となります。

(2) 徳島市での地域産業資源活用プログラムを実施して

- ①子ども扱いに慣れた施設・人材の協力により、スムーズなプログラムづくり、当日進行ができました。
- ②学校外に出られず、放課後教室内で楽しめる「森と木」のプログラムを実施することが難しかったです。
- ③地域の方々に負担にならない教室運営が基本となるため、何から何まで出前・持ち込みという形にしたので、今後教室スタッフによる自前実施は少々難しいと思われまます。
- ④「道具やおもちゃを作る」など、体験・作業しつつ地域産業や資源に興味を持たせることが重要です。
- ⑤地域資源活用プログラムの継続や拡大には経費負担が検討課題となります。

(3) 世田谷区での地域人材資源活用プログラムを実施して

- ①大学という地域資源の活用は放課後子ども教室にとって大変有意義です。
- ②食に限らず大都市部には人に伝える力を持つその道のプロが多く、この方たちを放課後教室に呼び込むことで魅力的なプログラムが拡がります。
- ③外部資源活用に積極的な教室スタッフと外部・教室をつなぐ中間組織の存在が魅力的なプログラムの誘導につながります。

2. 他地域での「地域資源活用による放課後子ども教室の活動内容充実」の普及促進のために

(1) 放課後ゆえ、産業界など地域の多様な主体が関われる間口が広い

- ①放課後子ども教室への関わり方は、仕事や生活の経験を活かして、放課後の子ども達の相手をするということであり、楽しく有意義な時間の提供が基本で、学習効果が厳しく問われるわけではありません。
- ②教室の側で、地元に関わりのある会社、農協・漁協等団体あるいは名士などを思い浮かべてプログラムを組み立ててみて、行政や保護者も含めて関係者を当たってみると何らかの縁故が見つかるでしょう。熱意と誠意を持って人の縁をたどり、子ども達に何かを伝えてほしいとお願いすれば道が開けるはずです。
- ③しかし、ゲスト(放課後の先生)の側で2時間プログラムを組み立てるとなると負担が大きく協力が得られにくく、教室側でプログラムを組み立て、ゲストも楽しめる出番を用意してお願いすることが重要です。

(2) 互いに無理なく、気持ちよく実施できる内容へとすり合わせを行う

- ①地域の「子ども達のため」ということに対して、地元企業や地域の名士の方々は「ノー」とは言いにくいでしょう。しかし、本業や日常業務以外で手間をとらせるわけであり、相手に「無理のない範囲」が基本であることは当然です。会社や団体で、PRや地域・社会貢献などの窓口があればそこに相談することが早道です。農協・漁協等の場合は、地元組合を通じて県や連合会などにつないでいただく話しが通りやすいでしょう。
- ②会社・団体等を退職されたOBの方に、人脈を紹介していただいたり、ご自身の経験をもとにプログラムを担当していただくということもよい方法かと思えます。

(3) 経費の参加者負担が可能であればプログラムの幅が広がる

- ①公益企業や大手メーカーなどでPRや社会貢献事業として出前教室を実施可能な場合は、無料教室(企業側が費用負担)となる可能性が高いでしょう。しかし、昨今の情勢もありこの例は減る傾向にあります。
- ②材料費(300~500円)程度の参加者負担が可能であれば、今回試行した「海とホタテ教室」「森と木の教室」のほか、様々なモノづくりや食づくりの教室プログラム実施の可能性が高まります。